



我邦れもんノ來歴ト其栽培、品種並ニ効用

濟州島漢拏山ノ南側海拔千三百米突邊ニてうせんしらべ (*Abies koreana*, Wils. ノ生ズル有様ナリ、落葉セル木ハあかしてトいぬしてトナリ

リテハ狼林山、金剛山、智異山并ニ濟州島漢拏山上ニ生ジ何レモ標高千二百米突以上二千米突ニ及ブ邊ニアリ特ニ漢拏山ニアルモノハ十數間ノ廣キニ互リテ擴ガル、本種トそなれ *Juniperus procumbens*, Sieb. トハ全然別種ナリそなれガ朝鮮ニ産スルコトハ ENDLICHER 氏以來唱フル所ナリシガ近時京畿道并ニ忠清北道ニアルコトヲ發見セリ但シ土民ハ之ヲ防砂用ニ用キ居ルヲ以テ果シテ本來ノ自生ナルヤ否ヤ速斷シ難シ

リーしりびやくしんハ北部高山ニノミ限リテ生ジ咸鏡北道冠帽山(二千五百米突)南胞胎山(二千二百米突)白頭山地方(千四百乃至千九百米突)ニ生ジ高キモノハ約三尺許トナル二種ハ分布廣ク周極地方ニハ到ル處ニアリテ朝鮮産ノ如キハ其分布ノ南限ヲナス (未完)

○我邦れもんノ來歴ト其栽培、品種并ニ効用

在東京 田村利親

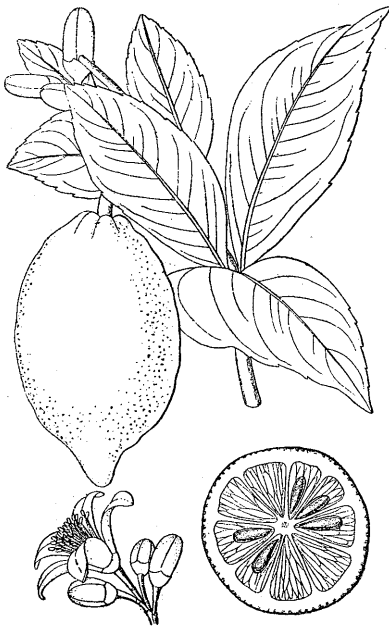
れもん即チ黎檬 (*Citrus Limonia* OSBECK. = *C. Medica* L. var. *Limou* L.) ハアラビニアニテハリムント云ヒベルシヤ

邊ニテハリムト呼ビ印度ベンガル地方ニテハレモート稱スル常綠灌木狀ノ柑橘類ニシテ芸香科ニ屬ス其天然ノ
 狀態ニテハ枝幹常ニ叢生シテ四方ニ下垂シ上方ニ向テ直立スルモノ殆ンド稀ナリ然シ幼樹ノ時ヨリ少シク人爲
 ヲ加ヘテ整枝ノ法ヲ施ストキハ亦他ノ或ル柑橘ト齊シク直立ノ姿勢ヲ現ハスニ至ルモノナリ

れもんノ枝ニハ短キ硬針アリ葉ハ互生シ長卵形ニシテ葉頭尖リ葉緣ニ鈍鋸齒アリ葉柄ハ葉面ト節合シ通常無翼
 ナレドモ時トシテハ狹緣ヲ呈ス花ハ葉腋ニ出デ寧ロ大形ニシテ一個或ハ集合シ蕾ハ紅色ヲ帶ブ花瓣ハ五片ニシ

れもん (縮圖)

Risso et Pourtau's Histoire et Culture des Orangers. ニ據ル



テ上部白色下部紅紫色ヲ呈シ雄藥ハ二十乃至四十
 アリ果實ハ中等大ニシテ黃熟シ橢圓形或ハ長橢圓
 形ニシテ頂ハ乳頭狀ヲナス内部ハ八乃至十室ニ分
 レ瓢多クシテ酸味強烈ナリ

れもんハ元ト亞細亞南方熱帶地方ノ產ニシテ四時
 開花結實スルノ性ヲ有スルモノナレバ我日本ノ本
 州ノ如キ溫帶地方ニ於テハ冬月降霜ノ害甚ダシキ
 ヲ以テ海岸溫暖ノ地ヲ除クノ外ハ常ニ多少ノ人爲
 ヲ加ヘテ之ガ保護ヲ爲スニアラザレバ亦充分ナル
 成長ヲ見ルニ至ラザルベシ

今ヲ距ル五十七年前即文久元年十二月四日外國奉
 行水野筑前守忠徳氏等ガ軍艦咸陽丸ニ乗ジテ小笠
 原島ニ至リシ頃ハ已ニれもんハ同島ノ各處ニ繁茂
 シ其結果ノ累々タルヲ目撃セシ者アリシト云フ然

我邦れもんノ來歴ト其栽培、品種并ニ効用

シ此等ノ說ハ今確カナル記錄ノ據ルベキモノ之レアラザレドモ嘉永六年癸丑六月米國ノ使節ペルリ氏ガ初テ相州浦賀ニ來リテ互市ヲ迫リシトキ彼等ノ軍艦ハ常ニ小笠原島ヲ以テ根據トナシ久シク茲ニ滯泊セシヲ以テ彼等ガ携ヘ來リシれもんノ種子ヲ食後此島ニ投棄セシヨリ遂ニ同島ニ其繁殖ヲ見ルニ至リシトノ說アリ蓋シ此說ハ或ハ眞ニ近カルベキカ

然ルニ當時日本ノ國情ハ孰レモ此ノ如キ細事ニマデハ敢テ注意ヲ拂フモノアラザリシガ其後明治十一年ニ至リ内務省權大書記官田中芳男氏ノ獻議ニ依リテ再ビ同島ノ開拓ヲ始メ且布哇ヨリ種々ノ熱帶植物ヲ輸入シテ大ニ之ガ栽培ノ獎勵ヲナセシヨリれもんノ栽培モ亦一層活氣ヲ呈スルニ至リ遂ニ小笠原島ノれもんハ一般世間ニ其名ヲ博スルニ至レリ

越テ明治十二年ノ頃ニ至リ我政府ハれもんノ種苗ヲ播州、紀州等ノ各地ニ送リテ頻ニ之ガ栽植ヲ試ミシト雖此れもんハ元來其需要多クハ其酸キ果汁ニ止マリテ普通温州甜橙ノ如ク直ニ之ヲ生食ノ用ニ供スベキモノニアラザルヲ以テ當時ハ只一人トシテ其價值ノ如何ヲ知ルモノアラザリシハ亦敢テ怪ムニ足ラザルナリ

爾來本邦ニ於テハ唯田中芳男、福羽逸人ノ兩氏ノミ常ニれもんノ將來ヲトシテ大ニ之ガ繁殖ノ獎勵ニ努メシモ世間ニ敢テ之ニ耳ヲ傾クル者ノアラザリシハ抑モ亦其原因ノ存スルモノナクンバアラザリシナリ

余ハ田中、福羽ノ兩氏ニ親炙シテ其說ヲ聞クコト既ニ屢ナリシガ明治二十一年以來聊カ之ヲ實地ニ試ミ次デ明治三十三年ニ至リ日本園藝會第三十三回小集會ノ際東京神田錦町ノ開花亭ニ於テ小笠原島諸島ニ於ケルれもん栽培ノ實況ヲ談ジ同年七月同會雜誌第九十八號ニ於テ此等ノ事ニ關スル長文ノ說ヲ掲ゲ次デ又明治三十五年三月明治農報第四十二號又ハ學農社發行ノ農業雜誌等ノ餘白ヲ借リテ内外れもんノ來歴ヲ叙シ本邦沿海ノ暖地ニ於テれもん栽培ノ適否ヲ論ジ頻ニ之ガ栽培ヲ鼓吹セシト雖時機尙早カリシカ世間ニ對シテ一人ノ質問ヲ試ムルモノモアラザリシヲ以テ見レバ略ボ當時我國ニ於ケル果樹園藝ノ狀況ヲ窺フニ足ルモノアリ

大正二年農商務省ハ高知外數縣ノ暖地ヲトシテ多額ノ補助費ヲ與ヘ大ニれもんノ栽培ヲ獎勵スルノ時期ニ達セシカバ久シク孤島ニ棄テラレシ晚種ノ麥田モ今ヤ漸ク出穂ノ雨露ニ浴シ我國南海ノ島嶼ハ日ナラズシテ一大物產ヲ起シ以テ國內需要ノ途ヲ講ジ尙進ンデ之ヲ海外ニ輸出シ玆ニ將來斯業發展ノ一新基源ヲ開クニ至ルベシれもんノ需要ハ年ヲ逐フテ増加スルノ勢アリテ現今世界各國ニ於ケル其產額ハ實ニ其量極メテ多ク從テ其種類亦年々ニ増加シ行キテ今ヤ幾百種ノ多キニ達シ今後モ尙品種改良法ノ施行ニヨリ更ニ如何ニ其品ヲ増加スルカ殆ンド豫メ推測スベカラザルモノアリ

本邦ニ於ケルれもんノ栽培ハ小笠原島ヲ以テ中心トシ之ニ次グモノハ廣島縣豊田郡ナリ而シテ是等ノ種類ハ元ト外國產ニシテ多クハ明治八年以來數回ニ本邦ニ輸入シタルモノナリ

抑モ小笠原島ノれもんハ外舶ノ齎シ來リタル以來數十年ノ間皆實生ニヨリテ繁殖セシメタルモノニシテ其品種ハ之ヲ精密ニ調査スレバ或ハ數十種ノ多キニ達スベシト雖多クハ品位劣等ニシテ果皮厚ク面粗糙ナルモノ頗ル多シトス

又内地ニアリテモ近年舶載スルモノ、外ハ概ネ實生ノ變種ニシテ良種ト稱スベキモノ甚ダ少ナク伊豆ノ熱海、駿州ノ興津、紀州ノ有田、薩州鹿兒島等ノ種類亦從來ノ實生ニシテ將來有望ノ品種トハ謂フベカラズ現時世界ニ於ケルれもんノ良種トシテ多ク賞用セラル、モノハ大概左ノ種類ニシテ新輸入ノ本邦栽培品モ亦此品ナリ

一「ジェノア」Genoa ハ伊太利ノ原產ニシテれもん中ノ良種ナリ果形ハ中等卵圓形ヲ成シ果皮薄ク且稍甘クシテ全ク無核ナリ採取ノ後能ク久シキニ耐ハ樹ハ矮性ニシテ殆ンド刺針ヲ有セズ結實最モ豐產ナリ本種ハ當時米國加州ニ於ケル良種ノ一ナリシト云フ

一「リスボン」Lisbon 亦良種ノ一ニシテ果形中等皮薄ク稍甘ク漿液強酸只僅カノ種子ヲ孕メルノミ此種類ハ葡萄牙ノ原產ニシテ曾テ米國ニ輸入シタルモノナリ現今本邦ニ在ルモノハ皆米國ヨリ來リタルモノニ係レリ

一「カラフランカー」Villa Franca ハ大栽培ニ適スル最モ有利ナル良種ニシテ又四季成れもんノ名稱アリ果形中等稍長クシテ皮薄ク且稍甘ク滑澤黃色ヲ呈シ多漿強酸殆ンド無核ニシテ樹幹強直枝朶ニ刺針ヲ具ヘズ他ノ種類ニ比シテ能ク寒冷ニ耐ハ樹勢甚ダ強剛ナリ此種類亦原ト歐洲ヨ

我邦れもんノ來歴ト其栽培、品種并ニ効用

摘 芳 拾 藥 錄 (其一)

リ米國ニ輸入シタルモノナリ大正四年高知縣ニ輸入セシモノハ米國テキサス州ノモノナリト云フ

一「ユーレカ」Eureka ハ果形中等黃色滑澤ニシテ光輝ヲ有シ能ク久シキニ耐ヘ漿液多量強酸ニシテ最も芳香ニ富ミ種子甚ダ少ナク或ハ無核ノモノアリ樹ハ半矮性ニシテ刺針少ナク結實頗ル豐産ナリ本種ハ原ト米國加州ロスアンゼルスノ産ナリト云フ

一「ケネデー」Kennedy ハ果形最大果皮滑澤漿液最モ多ク殊ニ枸橼酸ノ成分ニ富ミタル最良ノ種類ナリト云フ樹勢強健直立ノ性アリテ結果最モ豐産ナリ

れもんノ効用下ノ如シ

- (一) 生果ヲ搾リ魚類等ノ食品ニ注ギテ食フコト (二) 枸橼酸ノ材料トシテ最も貴重ナリ (三) れもん水トシテ飲料ニ供ス (四) ジャムノ材料トナス (五) 外皮ハ皮菓子トシテ最モ上品ナリ (六) 砂糖漬トシテ菓子ニ代用ス (七) 蜜漬トシテ亦佳品ヲ製スベシ (八) 果汁ハ布帛ノ洗濯用トシテ貴重ナリ (九) 果汁ハ婦人ノ頭髮ヲ洗フニ最モ有効ナリ (十) 甘れもんハ多少生食ノ用ニ供セラル (十一) 花ハ香水ノ原料トシテ最モ貴重ナリ (十二) 葉亦香水ノ原料トシテ花ト同様ノ價值アリ (十三) 果汁ハ亦製酒ノ原料トシテ貴重セラル (十四) 醫藥トシテ清涼ノ効アリ (十五) 食後果汁ヲ服スルトキハ健胃ノ効大ナリ (十六) 枸橼酸ハ種々ノ佐藥トシテ其需要多シ (十七) れもんハ當時歐洲ニ於テ肺病ノ特效藥トシテ大ニ賞用セララル、ニ至リシト云フ
- れもんハ霜雪ノ害ナキ處ニ栽培スレバ四時花ヲ開キテ實ヲ結ビ且樹モ強健ニシテ灌木ノ如ク生長頗ル盛ナルヲ以テ肥料亦甚ダ多キヲ要セズ經濟上最モ有益ナルモノナレバ將來沿海ノ地方即チ種子ヶ島、屋久島、大島、小笠原島、八丈島、琉球、臺灣等ノ如キ島嶼ハ最モ其栽培ノ適處ナル事ハ余ガ屢右諸島ヲ巡視シテ普ク知ル所ナリ尙其詳細ノ事ハ余ガ後日公ニセントスル日本れもん栽培錄ニ收録セリ

○摘 芳 拾 藥 錄 (其一)

牧 野 富 太 郎

古今種々ノ書物ニ植物ニ關シタ記事ガ出テ居ツテ其レガ亦吾人ニ甚ダ有益ナルモノガ少ナクナイ然シ其書ガ植物ノ書デナイ爲メニ吾人ハ之ヲ